

# F4 東日本はPP から快走の金井亮忠選手が今季初優勝!



F4東日本シリーズは金井亮忠選手がポール・トゥ・フィニッシュで今季初優勝を飾った。



インリンクもてぎを舞台とする「もてぎチャンピオンカップ」の第3戦が、6月10日に開催された。当日はあいにくの雨模様。時々やみはしたが、路面は終日濡れたままだった。

もてぎ・菅生ツーリングカー選手権もかかる、FIT 1.5 チャレンジカップは、ここまで3戦2勝でポイントリーダーの塩谷烈州選手が、ポールポジションを獲得。「始まった頃は、まだ路面は濡れていなかったんだけど、思ったより早く濡れちゃったんで、タイヤを履き替えて。熱もすっかり入れて最後が勝負だと思っていましたが、うまくいきましたね」と塩谷選手。決勝は直前の

予選で撒かれたオイルの処理に時間を要し、スタートが50分も遅れてしまう。

だが、そんなハプニングにも動じることなく、予選2番手の寺岡亮選手が好スタートを切るも、塩谷選手は逆転を許さず。それどころか、1周目だけで1秒以上の差をつける。一時は2秒近く離しながら、終盤に寺岡選手の再接近を許した塩谷選手だが、「スタートが決まって、早い段階で貯金ができたから逃げられました」と、終始冷静に対処できていたことを明らかにした。3位は中盤まで続いた太田侑弥選手とのバトルを制した中村義彦選手が獲得した。

スーパー FJは神情也選手が、開幕から3戦連

続でポール・トゥ・ウィンを達成。スタートで出遅れるも、2周でトップに返り咲き、最後は13秒差での圧勝となった。「スタート以外は、理想に近いレースができました」と神情也選手。2位は上田裕也選手で、3位は岡山シリーズから遠征の大島和也選手。予選の失敗で6番手スタートとなりながらも、しっかり追いつけて表彰台に上がることとなった。

F4東日本シリーズは、開幕2連勝の太田達也選手を抑えて金井亮忠選手がポールポジションを獲得。「走り出したら、『あれ? 調子いいぞ』って感じだったのと、後半だいぶ路面が良くなっていたので、合わせてタイムを伸ばして

いくことができました」と会心の走りに納得のよう。決勝でもスタートを決めて、1周目だけで2秒以上のリードを築き、そのままアクセルを緩めず、12周を駆け抜けた。最終ラップの90度コーナーで2番手を走行していた太田達也選手がコースアウトしたため、実に27秒差の圧勝となった。「こんなに離れて勝てたのは、初めてか



もてぎ-S-FJ / 1.S-FJはル・ポールのチームメイトが1-2。神情也選手が開幕3連勝と今回も速さを見せた。2.2位入賞の上田裕也選手。3.岡山から遠征の大島和也選手が3位入賞。4.左から上田、神、大島の3選手。



5.FITで3位入賞の中村義彦選手。6.Vitzで3位入賞の小林一景選手。7.F4で3位入賞の太田達也選手。8.普勝峻選手はVITAで3位入賞。9.吉田綜一郎選手はMX-5で3位入賞。10.もてぎシビックで3位入賞の関直之選手。11.もてぎCIVICは藤原大暉選手がポール・トゥ・ウィンでスプリント初優勝を達成。12.MX-5 CUPは、堤優威選手が開幕戦に続いて連勝を果たした。13.38台が出走したVitzは2番手スタートの北田和哉選手が優勝。14.FIT 1.5 チャレンジカップは塩谷烈州選手が今季4勝目を獲得。15.FIT表彰。左から寺岡、堀谷、中村の3選手。16.VITAで2位入賞の茂木祐一選手。17.CIVICで2位入賞の貴島康博選手。18.F4で2位入賞の太田格之進選手。19.梅田剛選手はMX-5で2位入賞。20.寺岡亮選手はFITで2位入賞。21.F4表彰。左から2位太田(格)、優勝金井、3位太田(達)の3選手。22.黒田保男選手はVitzで2位入賞。23.F4-H表彰。左から2位芳賀、優勝小村の各選手。24.F4-Hクラスは小村明生選手が優勝。25.VITAは相馬充寿選手が2連勝を飾った。

も。今後もこの調子で行けたら、いいですね」と金井選手。2位は太田格之進選手が獲得し、太田達也選手はそれまでの貯金が効いて、3位でのゴールとなった。

ネットカップ・ヴィッツ関東シリーズは「今回が2レース目で、免許取り立ての18歳です」と語る小林一景選手が、もちろん初めてのポールポジションを獲得する。さらに「まわりがベテランばかりなので、決勝はどうなるか」と続けて苦笑いの小林選手だったが、そんな予感的中す

ることに。スタートでまず予選2番手だった北田和哉選手の先行を許し、さらに黒田保男選手が、小林選手にピタリと食らいついて離れなかったからだ。

4周目の1コーナーで黒田選手が2番手に浮上、しかし小林選手も3番手で踏み留まって、表彰台に上がることに成功した。一方、トップでチェッカーを受けた北田選手は、「狙った通りの展開になりました。早い段階でトップに立って離れたし、後ろも競っていたし。もし誰か来ても抑えられる自信はありました」と、快勝に余裕の表情を見せていた。

グローバルMX-5カップジャパンは、堤優威

選手が開幕2連勝を達成。3週目に佐々木孝太選手の先行を許したが、13週目に抜き返し、そのまま逃げ切った。「すごく厳しいレースでした。でも、ワンチャンスを掴んで前に出ることができて、本当に良かったです」と堤選手。

もてぎVITAは相馬充寿選手が2連勝。ポールポジションを奪った茂木祐一選手との接触はあったが、6週目からトップを快走した。また、もてぎCIVICはスタートで関直之選手がトップに立つも、7週目に藤原大暉選手が逆転し、ポール・トゥ・ウィンを達成。「すでにS耐に出ています。スプリント3戦目で初優勝です」と藤原選手。2位は貴島康博選手が獲得した。